

1. 構想の概要

【構想の名称】

PRIMEプログラム：世界で活躍できる「実践人」を育成する！

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

学生と教職員は高度な能力を身に付けて世界に出かけ、また世界から優れた学生や教員及び研究者を岡山大学に迎え、岡山大学を世界に向けて創造的な知の成果、技の結実を発信する大学に進化させる。人をかえ、地域をかえ、世界をかえ、10年後、世界に存在感を示す岡山大学になる。

【構想の概要】

PRIME (PRactical Interactive Mode for Education) プログラムにより、学生は3基幹力／3 powersを知識として持つだけでなく、3側面／3 facesの経験によりグローバルな現場で試す機会を持つことができ、現場に必要な、会話力、創造力、行動力、統率力、決断力を涵養し、実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力(グローバル実践知)を身に付けることができる。

1. リベラル・アーツ教育と語学力の育成

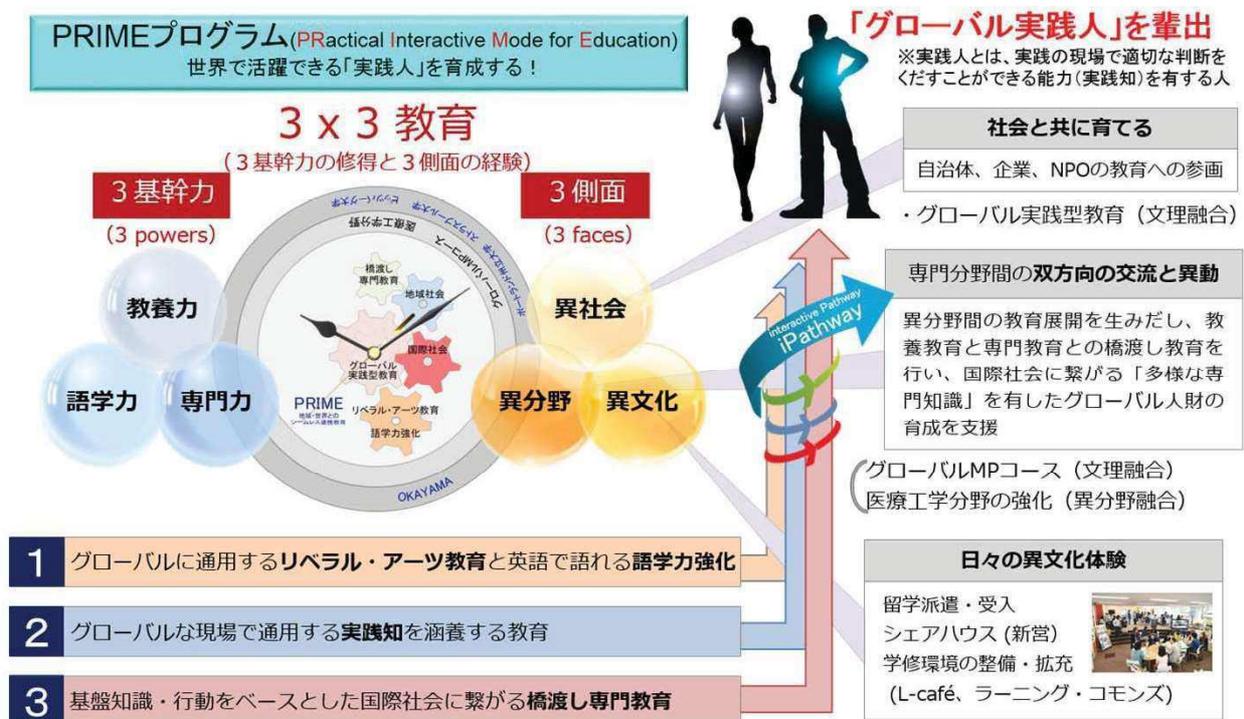
リベラル・アーツ教育により、グローバルに活躍するために必要な日本人としてのアイデンティティを形成し、自分の考えを英語で語れるコミュニケーション力を育成する。

2. グローバルな現場で通用する実践知教育

学生は、地域・企業・国際社会の現場体験を通して現場の課題を解決することにより、適切な判断をくだす能力を修得できる。グローバル実践型教育は、実社会との互惠性を保持することも目的とする。地域のみならず国際社会との連携教育を全学展開する。

3. 国際社会に繋がる橋渡し専門教育

教養教育で身に付けた基礎知識・行動力をベースに、総合大学の強みを活かして、多様な専門知識を有した人財を育成する。



高等教育開発推進機構
地域総合研究センター (AGORA)

Global Partners
EXPERIENCES



【10年間の計画概要】

国際化推進体制

グローバル人材育成特別コースの拡充(定員50人→150人)、予備教育特別コース・短期留学受入コースの設置・拡充(60人/年→200人/年)

※留学生数2,000人 留学経験者1,200人 異文化体験100%

教育制度改革

ナンバリング導入(実施率100%)、60分授業・クォーター制の全学導入(平成28年度～)、高等教育開発推進機構を設置し新教養教育を開始(平成28年度～)

※ナンバリング、60分授業、クォーター制 100%導入

グローバル実践型教育

実践型教育の全学展開と大学院・社会人教育への展開、地域との連携による会議組織による実践型教育の推進

※全学生にグローバル実践型教育 100%

学びの自由度(MPコース)

新入試(IB、特別入試)の導入、グローバルMPコースの設置(定員の拡充:17人→250人)

※外国語による授業2,100科目 外国語のみで卒業コース率45%

強みの伸長 国際医療工学

生命医用工学専攻の設置、海外キャンパスの設置、国際医療生体工学研究科の新設

※外国語による授業2,100科目 外国語のみで卒業コース率45%(再掲)

国際化を支えるガバナンス体制

国際センターの改組、年俸制の拡大、大学改革推進体制の強化、5U戦略(URA・UEA・UGA・UPR・UAA)の展開

※年俸制:教員53.1% 職員31.3% 外国人等比率:教員60% 職員10%

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

・グローバル実践型教育の全学展開

大学と社会との協働を特徴とするグローバル実践型教育科目を、全学体制で実施。

留学生と日本人学生が学部横断でチームを組み、地域や世界の歴史・文化・産業を共に学ぶ。座学で得た知識を持って社会の現場に出かけ、社会が直面する課題に、学生と社会が協働して取り組む。学生はグローバルな視点で課題解決ができるグローバル実践知を修得し、社会は課題を解決する。

・特色を進化させるグローバルマッチングプログラムコース

学生が自ら設定する課題に応じ、学部・学科横断型の履修プログラムにより学習できる現在のマッチングプログラムコースを拡充し、グローバルマッチングプログラム(グローバルMP)コースとして設置。

文系・理系それぞれに英語学位取得コースを設定し、1年生から徹底した語学教育を実施する。英語と日本語による教育を行い、留学生と日本人がともに学ぶ混合ゼミを開講する。また、日本人、留学生ともに海外を含めた長期インターンシップによる異社会・異文化での学びを行う。これらにより国際舞台で活躍できる人財の育成を目指す。

・強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

「生命医用工学専攻」(平成27年設置)をベースに、医学・工学・農学を中心とした異分野融合研究を発展させるため、平成30年に「国際医療生体工学研究科」を設置。

社会の高齢化が進む現代において、介護、医療や福祉の分野では患者のQOL向上を可能にする新しい医療機器、診断治療技術、創薬開発技術の開発をリードできる人財が必要不可欠となっている。そうした人財を育成するため、平成30年に「国際医療生体工学研究科」を設置する。また、海外提携大学病院との連携を更に強化し、国際的な医療工学研究を展開する。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 国際バカロレア入試

国際バカロレア入試(4月入学)は、平成25年度までは理学部、医学部保健学科、工学部、農学部、マッチングプログラムコースの4学部1コースで実施していたが、平成27年度から全学部全学科に拡充した。

2. 大学院予備教育特別コース

平成26年10月、大学院予備教育特別コース(留学生の大学院進学準備を支援)と短期留学受入コース(学部3年を終了した学生を特別聴講学生として受入)を開設した。大学院予備教育特別コースの受入実績は、平成26年度後期28名、平成27年度前期30名、平成27年度後期は60名を超える予定である。

3. ナンバリングとシラバスの英語化

8-9月にナンバリングの試行入力を実施し、試行結果を踏まえナンバリング案「AREAtGETxpqW」を11月開催の教育研究評議会に諮り、全学の承認を得た。シラバス英語化は、平成27年度版を平成26年度内に完了し、3月に学生に公開した。

4. 留学開始前及び開始時の支援

学生ビザの取得サポートや到着後の手続きについてをわかりやすくまとめた冊子を事前案内として作成した。平成26年後期から国際便の到着に合わせて空港送迎サポートを行っている。

オリエンテーションは、言語別(日・英)に行い、岡山大学生協、携帯電話の説明など生活に必要な情報案内を増やすとともに、寮のレジデント・アシスタント(RA)や学生ヘルプスタッフなどを通して到着直後の留学生の支援がスムーズにできるよう内容を充実させた。



〈ヘルプスタッフによるサポート〉

ガバナンス改革関連

1. 大学改革のための会議

大学改革推進会議を設置し(平成26年4月)、大学改革に関する戦略や方針策定等について大学執行部間による意見交換を開始した。同時に、BR(Build&Renovate)会議を設置し、大学改革に関する具体的な施策の実施等について、部局長との意見交換や情報共有等の機会を設けている。両会議は、毎月定期開催している。

2. 高度専門職系職員の採用

学長・担当理事の下、自らの判断で動く実務家集団5U(UEA、URA、UAA、UGA、UPR)を学外より年俸制により登用することとした。平成26年度は、研究施策の提言や、世界的研究情報の把握・分析など、大学の研究サポート体制を一層強化するためにURAを3名、また、大学全体の広報戦略を策定し、実践を行うUPRを1名雇用した。

3. 年俸制の拡大

平成26年度に常勤教員に適用する制度を構築した。平成26年度内に190名(15%)を年俸制に適用する計画であったが、実際には214名(17%)に適用できた。

教育改革関連

1. 高等教育開発推進機構の設置

高等教育等に関する情報収集、研究開発、企画及び教育改革に関する調査・研究、教育課程・教育方法の検証及び全学的な教育の推進を支援する教育研究組織として「高等教育開発推進機構」を平成26年10月に設置し、60分授業、クォーター制導入に向けた検討を実施した。

2. 自主学修スペースの確保

中央図書館、鹿田分館の耐震改修工事により、両館にラーニングcommons、セミナー室・グループ学修室等の自主学修スペースを確保した。新しい施設の効果や、クリティカルシンキングやフィンランド方式対話法によるコミュニケーション能力を育成する教育プログラム開発に向けたパイロット授業等の多様なイベントを実施したことなどにより、中央図書館の平成26年度入館者数は451,894人となり、対前年度比約1.5倍に増加した。



〈ラーニングcommons〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. グローバル化に対応するため積極的に改革が必要と考えるマインドを持つ教職員を増やす。

平成26年度に、大学改革に向けて企画力、コミュニケーション能力等を向上させるための若手事務職員育成研修「若手職員塾」、グローバル人材育成に向けた英語のコミュニケーション能力の向上を目的とした「グローバルリーダーシップ研修」、グローバル化に向けた礎を築く職員の資質向上を目的とした「グローバルビジョン研修」を実施した。

また、毎年実施の「部局長等合宿セッション」に加え、工学部では、大学改革の取組を促進する「教員のための大学改革マインド向上研修会」を実施した。



〈 部局長等合宿セッション 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

自治体(県知事)及び経済界(経済同友会代表幹事)を招いて、地域に本構想を紹介するシンポジウムを開催し、グローバル実践型教育を展開するため産学官連携を強化した。

また、実践型社会連携教育プログラムの定義(案)を定め、平成27年度に行う試行科目を決定し、平成28年度実施予定の授業科目案を作成した。今後は、プログラムの自己点検結果を踏まえ全授業科目を点検し、平成28年度に本格導入する。



〈 産学官連携のためのシンポジウム 〉

2. 特色を進化させるグローバルマッチングプログラムコース

平成29年度コース設置に向けたWGを組織し、現行のマッチングプログラムコースの拡充及びグローバル化に向け、他大学との差別化に向けたカリキュラム開発のための海外IB校での聞き取り調査等を行った。幅広い学問領域での学びの保証や、大学院への接続プログラムの設置等、総合大学の利点を活かしたカリキュラムの構築を開始した。

新プログラムにおいては、多様なバックグラウンドを持つ学生がともに学ぶことを基本とし、3×3教育の実現に向け、徹底した語学教育、リベラルアーツ科目の必修化、複数の専門科目群の設置による文理融合教育、国内外での長期インターンシップ等の実践型科目の開設を行う予定である。

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

新しい研究開発をリードする人材を育成するため、大学院自然科学研究科の産業創成工学専攻及び化学生命工学専攻から医用工学に関わる教育研究分野を統合し、同研究科内に「生命医用工学専攻」を設置した(平成27年4月1日)。

ミッションの再定義で評価された本学の強み「臨床研究や移植医療の推進(医学)、医農との異分野融合/生物機能(工学)、医歯薬理工農分野との連携(看護・医療技術)」を伸長する国際医療生体工学研究科(仮称)の新設(平成30年度)に向け、全研究科長と意見交換を開始した。

■ 自由記述欄

1. 工程表に基づく着実な計画の実行

今後10年間で達成する全取組を工程表にまとめ、各取組に担当責任者(理事クラス)、実施責任部署を設定した。工程表の全項目に対してSGU進捗状況確認表を作成し、定期的に全取組の進捗状況を確認することで、計画の着実な実行を目指している。

2. 教職員一体となつての事業展開

取組内容別に教員・職員からなるプロジェクトチームを編成し、教職協働で事業推進を実行している。

3. 全学を挙げての事業推進

プロジェクトチームで検討した内容等を、全部局長が参加するBR会議に諮り、全部局との意見交換を行っている。全部局の了解を得て、教育研究評議会等で事業を決定し、実行に移している。

〈 SGU進捗状況確認表 〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 国際学生シェアハウスの建設

平成28年3月に、120名の学生(日本人学生30名、外国人留学生90名)が共同生活を送るシェアハウスが完成した。共同生活を送ることで、お互いの文化理解や協働、学びあいが促進されるとともに、語学学習意欲の向上や国際交流・留学への啓発の場としても期待される。

○ グローバル人材育成特別コースの体制充実及び受入学生数を倍増

入学した学部にも所属しながら、コースのカリキュラムに則して英語力養成、海外研修・留学などのプログラムを履修し、グローバルリーダーシップを育むことを目的としてグローバル人材育成特別コースの受入学生数を倍増(50名→100名)した。

また、コース生の増加に対応できるよう、協定校の新規拡大(新規大学間協定校14校、新規部局間協定6校、海外新規語学研修先2校)を図るとともに、これまでの海外語学研修及び交換留学協定プログラムの拡充(語学研修・交換留学定員数を約90人増加)及び海外インターンシップ先の新規開発・実施(3件)を全学を挙げて行った。

○ 大学院予備教育特別コースの拡充

大学を卒業した留学生の大学院進学を準備するための受入プログラム「大学院予備教育特別コース」を平成26年度から引き続き行い、4月期22名入学、10月期27名入学と着実に在籍者を増やし、海外留学生の日本語能力の向上を図ることができた。

○ 授業科目のナンバリングとシラバスの英語化

授業科目のナンバリングとシラバスの英語化を推進し、平成28年度の授業科目については、いずれも100%となった。

ガバナンス改革関連

○ 教員再配置システムの構築

大学執行部及び部局長による改革推進に向けた意見交換を行うBR(Build&Renovate)会議において、分野毎の学生収容定員に基づく標準教員数を「基盤数」とし、学内共通事業に関する当該部局の貢献度等により算出した「貢献数」を加味した部局の「基本教員数」を算出する教員再配置システムを構築し、学内資源(教員ポスト)の再配分・最適化を実施している。

○ 広報・情報戦略

岡山大学のブランディングのための広報戦略本部を平成27年5月に設置し、学部案内デザイン統一化、大学及び学部英語版ホームページの改訂等を行った。

また、平成26年度に設置した情報戦略(広報・IR)検討プロジェクトチームにおいて、本学が所有する諸情報の収集、整理及び分析を通じた計画策定を行った。

○ 多様な教職員確保

外国の大学で学位を取得し、外国で通算1年以上の職務・研究経験のある者をUniversity Global Administrator(UGA:大学の国際戦略策定を行う高度専門職)として採用した。また、クロスアポイントメント制を適用した教員の採用や教職員に対する年俸制適用者の拡大(平成27年3月1日236名→平成28年3月1日375名)を図るなど、多様な教職員の確保に努めた。

教育改革関連

○ 全学60分授業、4学期(クォーター)制の導入に向けた取組

平成28年度から導入する全学60分授業制による学びの強化、4学期(クォーター)制導入による学生の主体的活動(長期留学、ボランティア等)の向上について学生、教職員に周知し、カリキュラムの見直しや授業改善を促進させるとともに、新体制のスムーズな導入を可能にした。

○ 全学組織体制の強化

教育関係組織の機能向上、簡素化を図るため、教育関係の2機構・7全学センターの改組・統合・廃止について議論を重ね、「全学教育・学生支援機構」を平成28年4月に新設することとした。このことにより、新たな業務要請(グローバル化・高大接続等)対応できるとともに、全学教育に関する議論の場を明確にした。



〈国際学生シェアハウス〉



〈グローバル人材育成特別コース授業〉



〈全学60分授業、4学期(クォーター)制〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 人材育成(「人をかえる」仕組)として、教職員のマインドを“変える”ために、PBL型研修を拡充

従来行っていた新任教職員研修や事務系の主査・主任研修にPBL要素を加えることで、大学改革に向け、企画力、コミュニケーション能力等を向上させる機会を拡充した。

また、平成24年度から開講している若手職員塾について、平成24年度及び平成25年度受講者の能力をさらに向上させることを目的とし、若手職員塾〈発展型〉を開講した。



〈若手職員塾〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

グローバル実践型教育として評価が高いコーオプ教育に関して訪問調査を行い、本学での導入・展開のための試行事例としてブリティッシュコロンビア大学(UBC)のCo-opプログラムを実施することとし、UBC学生を3ヶ月間受入れ、県内の林業関係企業へ派遣し、その期間内に本学学生を同行させ、Co-opプログラムを実施した。また、岡山大学版Co-opプログラムの紹介や、コーオプ教育の目的、有効性及び今後の課題について意見交換を行うことを目的としたグローバル実践型教育特別シンポジウムを開催した。

実践型社会連携教育科目については、試行を教養教育13科目で行い、平成28年度から教養教育約60科目及び専門教育約50科目に本格導入する。



〈UBC学生とのCo-opプログラム実施〉

2. 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

平成29年度コース設置に向け、グローバルマッチングプログラムコース設置構想の内容の充実・発展などを検討し、グローバル・ディスカバリー・プログラムに名称を変えとともに、設置準備室の設置を行った。また、7つの検討チーム「カリキュラム」「入試」「広報・リクルート」「留学生サポート」「言語教育」「長期インターンシップ」「教育方法・施設」を置き、計64回におよぶ検討会を開催した。

留学フェア参加や海外高校訪問を行い、広報・リクルート活動を行った。また、海外における人材需要の把握、必要とされる専門性や能力の整理を続けた。さらに学生・社会のニーズに合った教育効果の高い実践力を兼ね備えた人材を育成するカリキュラム開発及び同プログラムが求める人材に適志願者を獲得するための入試制度を整備した。



〈グローバル・ディスカバリー・プログラム広報
(第3回GO Global Japan Expo)〉

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

医療工学分野の強化と人文社会系との融合による高齢社会の課題解決のための医療科学連携大学院の検討会及びワーキンググループを設置した。医工連携に留まらず、人文社会系からも参画する方向で検討が進み、平成30年度の大学院医療科学統合研究科(仮称)の設置に向け、文理融合による社会・学生のニーズにあった大学院の設置に向けた検討を進めた。

また、平成28年度に大学院医療科学統合研究科(仮称)ワークショップを開催する。

■ 自由記述欄

○ 外部評価委員会の開催

外部有識者5名、本学学長、関係理事6名及び学長補佐3名による平成27年度岡山大学スーパーグローバル大学等事業外部評価委員会を開催した。構想実現に向けた数値的なプロセス管理による全学的な取組の推進と教職員への意識付けを行うことができた。



〈外部評価委員会の開催〉

○ スーパーグローバル大学創成支援進捗状況確認表による進捗状況の確認

スーパーグローバル大学創成支援の全取組について、担当責任者(理事クラス)及び実施責任部署を明らかにしたスーパーグローバル大学創成支援進捗状況確認表を活用し、教員・職員からなるプロジェクトチームで定期的に進捗状況の確認を行った。また、課題を把握することで、改善策の議論を行った。

○ スーパーグローバルデーの開催

グローバル化・国際交流の推進を目的とした新たな試みとして「岡山大学スーパーグローバルデー2015」を開催し、国際同窓会の海外支部同窓生など国内外から集まった400人を超える来場者が交流を深めました。



〈スーパーグローバルデーの開催〉

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【岡山大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外協定校、国際同窓会の拡大に向けた海外展開

海外協定校(260校→284校)、国際同窓会支部(46カ所→51カ所)、海外事務所(8カ所→9カ所)を拡充し、留学生の受入・派遣の強化を図った。

海外の大学や機関との学生交流および教職員交流を活発に行い、平成28年4月～平成29年3月に新たに14大学・機関と大学間協定を、19大学・機関と部局間協定を締結した。また、これ以外にも部局間協定から7大学を大学間協定へ格上げして締結した。

平成28年10月に、スーパーグローバルホームカミングデーを開催し、国際同窓会の支部長を本学に招集して受入留学生増加について協力を要請するとともに、記念講演会を開催した。



〈スーパーグローバルホームカミングデーの記念講演〉

○ 学生派遣・留学生受入れ促進戦略の実施

平成28年2月に設置した学生派遣・留学生受入れ促進戦略タスクフォースにより、全学部・研究科等の目標値を設定した。また、短期間の教育、研究指導又は研修を受けることを希望する外国人の受入れを推進するために、「岡山大学外国人短期研修生」の身分を設けるとともに、外国人短期滞在者登録システムを学内で構築した。日本人学生の派遣登録システムについても、平成29年度導入に向け、検討を行った。

○ 国際学生シェアハウスの供用開始

平成28年度4月から国際学生シェアハウスを開設し、留学生・日本人学生80名を新たに入居させ、10月には、定員120名すべての入居を完了させた。また、ハード面だけでなく、日本人のユニットリーダー、フロアリーダー体制、家賃や施設管理、寮運営全般などソフト面の制度についても整え、寮運営の効率化を図った。

ガバナンス改革関連

○ 学長選考会議による次期学長選考の実施

学長選考会議の下に学長選考方法検討WGを設置し、学長がリーダーシップを発揮できる大学運営を観点として審議を重ね、「学長選考に関する提言」としてとりまとめ、学長選考関連規則の改正を行った。平成28年度には、改正した規則等に基づき、予め学長選考会議が学長選考基準を明示し、書類選考、学内の意見を収集するための意向調査に加えて、候補者に対するヒアリングを学内公開し、それらを資料として、学長選考会議が主体的かつ透明性を確保し、次期学長候補者を選出した。



〈記者会見に臨む榎野新学長〉

○ 多様な教職員確保への取組(年俸制、海外経験等)

教職員に対する年俸制適用者(平成28年3月1日375名→平成29年3月1日493名)の拡大を図った。さらに、国立研究開発法人理化学研究所、武田薬品工業(株)、大日本住友製薬工業(株)及び海外の大学であるLehigh Universityとクロスアポイントメント制度に関する協定を締結し、計4名の教授を雇用した。

また、国際公募についても積極的に導入するよう部局長に要請した。すべての部局等でテニュアトラック制導入を推進し、年間採用者に対するテニュアトラック対象者の割合は72.5%(対前年度16.2%up)となった。

教育改革関連

○ 教育システム制度改革の推進

平成28年度から全学60分授業、4学期(クォーター)制を導入した。また、全学教育体制を見直し、「全学教育・学生支援機構」を新設するとともに、一体化した教育改革の推進を目指し、平成29年度に向けた全学60分授業・4学期制の検証・改善と教養教育科目(リベラル・アーツ)の充実を図った。さらに、実践人を育成するPRIMEプログラムの高度実践人認定システムを構築した。



〈高度実践人パンフレット〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 学内外での国際化研修、リーダーシップ研修、短期派遣等の実施

職員英語研修として40名程度を対象として、オンラインによる英会話と集合型のTOEIC対策講座を組み合わせたハイブリッド型研修を実施した。PBL型研修に関しては、若手職員塾をはじめとして実践型グローバルビジョン研修、英語での教授法を学ぶ研修会等を実施し、合計515名が参加した。

また、事務職員の海外研修として、マレーシア(マラヤ大学・語学研修プログラム参加)や中国へ派遣した。



〈マレーシアにおける事務職員の海外研修〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

カナダのブリティッシュコロンビア大学(UBC)と連携し、「Co-opプログラム」のUBC学生2名を受入れ、岡山大学独自の日本人学生向け企業体験型科目である「国際インターンシップ科目(学生14名/平成27年は9名)」を実施した。この他、実践型科目として教養教育64科目、専門教育61科目(平成27年度は教養教育12科目試行)を開講した。

また、平成28年5月に、G7倉敷教育大臣会合に出席するカナダ連邦政府のメアリー・アン・ミハイチャック雇用・労働力開発・労働大臣が岡山大学を訪問され、社会貢献・国際担当理事が本学とカナダの大学の活発な交流状況を説明した。



〈カナダ政府の大臣が岡山大学を訪問〉

2. 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

専任教員9名を国際公募による新規採用や学内異動により配置するとともに、平成28年4月に事務組織として「グローバル・ディスカバリー・プログラム設置準備事務局」を設置した。

入試関係では、平成28度から実施した平成29年10月入学者の国際入試に向けて専任教員を中心に11カ国・75校の高校等を訪問した。第1期(11月～12月実施)及び第2期(2月実施)の国際入試では、15カ国から募集人員の2倍を超える53人の志願者を得た。2月に実施した国際バカロレア入試では若干人の募集に対し、4人の志願者があった。



〈グローバル・ディスカバリー・プログラムの教員陣〉

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

医療統合科学研究科の新設(平成30年度)に向け、平成28年10月に「設置準備委員会」を設置し、その下部に「設置作業部会」と「教員候補者選考作業部会」を置いた。

設置作業部会は毎月2回の頻度で開催し、医工連携と文理融合を柱とした教育研究による医療を取り巻くあらゆる諸課題に対応できる幅広い人材育成を目的として、教育研究組織、学生定員、教育カリキュラム等を検討するとともに、教員候補者選考作業部会では、研究科専任教員候補者に係る業績審査等を行った。

また、岡山市、岡山経済同友会に加えて、アメリカ・サンノゼ市、デトロイト日本商工会から、本構想の重要性・必要性を求める要望書も受け、平成29年3月にこれらの要望書も添付して文部科学省へ設置計画書等を提出した。

■ 自由記述欄

○ グローバル・ディスカバリー・プログラム開設記念シンポジウムの開催

平成29年2月に、国内外から講演者を迎え、グローバル・ディスカバリー・プログラム開設記念シンポジウムを開催した。このシンポジウムを通じ、グローバル・ディスカバリー・プログラムの更なる周知及び大規模総合大学において同様の取り組みを進めてきた米国、オランダ、日本の先進的事例を紹介し、グローバル実践人の育成に向けてのビジョンと課題について参加者間での共有を図った。



〈グローバル・ディスカバリー・プログラム開設記念シンポジウムのパネルディスカッション〉

○ スーパーグローバル大学創成支援事業取組状況説明会の開催

平成28年8月に、スーパーグローバル大学創成支援事業に選定された構想「PRIMEプログラム:世界で活躍できる『実践人』を育成する!」の実施状況について、学長以下、各理事による取組状況説明会を開催した。約160人が参加して活発な意見交換が行われた。

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【岡山大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 国立六大学による国際連携事業への展開

国立六大学連携コンソーシアム(千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学)の国際競争力向上のための連携強化を目的として、平成29年6月に、オランダ高等教育国際協力機構(Nuffic)、シーボルトハウス、オランダ王国大使館との共催により、日蘭国際シンポジウムを駐日オランダ王国大使館で開催した。

今後も本学が中心的役割を果たしていくとともに、隣接する欧州拠点であるドイツ(千葉大学)・オランダ(長崎大学)・ベルギー(金沢大学)との相互交流・連携を強化し、エラスムス・プラスやEU-SHAREの創出支援を行うなど、オランダをはじめとする欧州のトップレベルの大学との更なる交流・連携を発展させる。



〈レセプションで会談する
榎野学長とヤコビ駐日オランダ大使〉

○ 学生派遣・留学生受け入れ促進戦略の実施

平成28年2月に設置した学生派遣・留学生受け入れ促進戦略タスクフォースにより、平成28年度以降の全学部・研究科等の目標値を設定し、部局の数値目標を支援するため、公募型プログラム開発事業を募集し、経費的な支援を行った。

受入留学生の促進としては、「岡山大学病院長期研修生」の身分を設けて受入体制を整えた。日本人学生派遣については、「派遣留学支援・海外渡航登録システム」を作成し、学生の渡航状況を一括管理でき、危機管理にも活用できるシステムの運用を開始した。

ガバナンス改革関連

○ 推進体制の整備と目的意識の共有

実質化の推進体制について、これまでの「先導的推進体制」から深化させて、学長以下全執行部・全部局が一体となり大学改革を包括的に推進することで実行性を高めるために、平成29年4月より、「目標管理による推進体制」へと見直しを行った。

大学改革を包括的に推進するために、MBO-SとIR/IEによる目標管理で教職員の意識改革を図り、「大学戦略会議」、「大学改革推進のためのプロジェクト本部会議」及び「IR/IE室」を新設して、迅速な意思決定の下、大学改革の更なるスピードアップを図るとともに、IR/IE(Institutional Research/Institutional Effectiveness)によりエビデンスに基づくPDCAサイクルを確立した。



〈目標管理による推進体制〉

○ SDGs推進体制の構築-第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞-

「榎野ビジョン」の下、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献する活動に、SDGsに関する岡山大学の行動指針を策定して取組み、SDGsの達成に向けた岡山大学の取組事例集を公開した。

平成29年12月には、これらの活動が評価され、日本政府が表彰する第1回「ジャパンSDGsアワード」の特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を、国公立大学で唯一受賞した。

平成30年2月には、本学のSDGs達成の観点を取り入れた大学運営を全学的に進めるとともに、地域及び国際社会とのより一体的なパートナーシップ構築のための取組を推進することを目的として、岡山大学SDGs推進本部を設置した。



〈総理大臣官邸における授賞式〉

教育改革関連

○ 教育システム制度改革の推進

全学教育・学生支援機構において、60分授業・4学期制の改善と教養教育科目(リベラル・アーツ)の充実及びコンピテンシーの導入を図った。

さらに、高度な創造力、行動力等を身に付けた学生を「高度実践人」として認定する高度実践人認定システムについて、ルーブリック評価を行うとともに、82名の学生を選出し、表彰を行った。

また、学生公募によってデザインを決定した高度実践人のロゴマークの商標登録を行い、地元経済界に対して説明し、パンフレットを配付するなど、高度実践人の意義やシステムを広く周知した。



〈高度実践人のロゴマーク〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 次世代を担う若手教職員による「岡山大学未来懇談会」の開催

「楨野ビジョン」の下、より良い大学の将来構想についての多角的な検討を実施し、絶え間ない大学改革を進める中で、若手教職員ならではの視点とアイデアを重要な参考材料として、未来の岡山大学に活かしていくため、「岡山大学未来懇談会」を平成30年2月に2回開催した。

「岡山大学の未来像～大学院の強化を中心に～」をメインテーマとし、各部局から若手教職員31名が参加して4グループに分かれ、議論では現実的な課題解決案から岡山大学の未来を拓くアイデア等を発表した。



〈岡山大学未来懇談会Session1-1〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

グローバル実践型教育プログラムとしては、カナダのプリティッシュコロンビア大学(UBC)と連携し、「Co-opプログラム」のUBC学生3名を受入れ、岡山大学独自の日本人学生向け企業体験型科目である「国際インターンシップ科目(学生13名)」を実施した。平成29年度は、実践型科目として教養教育68科目、専門教育40科目、大学院10科目を開講した。

2. 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

平成29年4月に専任教員2名を新規採用し、13名の体制とした。平成29年10月には国際入試に合格した16カ国の31人の学生を第1期生として受入れ、グローバル・ディスカバリー・プログラムをスタートさせた。

入試関係では、第1期生の入試結果等により入試制度を見直し、3期実施していた国際入試を2期に集約した。平成30年度入学の国際入試においては、24カ国から募集人員の2.7倍を超える82人の志願者があり、国際バカロレア入試では若干人の募集に対し、7人の志願者があった。



〈入学式会場前の
グローバル・ディスカバリー・プログラム第1期生〉

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

ヘルスシステム統合科学研究科の平成30年度新設に向けて、設置申請を行い、平成29年11月に大学設置・学校法人審議会設置を可とする回答がなされた。

また、運営に関する検討も進め、新研究科設置準備委員会の下に、7つの部会・WGを設置して、新研究科の運営体制、HPをはじめとした広報、教務・入試・学生生活の制度設計、先進病院実習の設計等膨大な案件に関して検討し、平成30年4月の設置に向け万全の体制を整えた。

■ 自由記述欄

○ 「スーパーグローバル大学創成支援事業」中間報告シンポジウムの開催

平成30年3月に、「ともに育て、グローバルに活躍する高度実践人—PRIMEプログラムの深化・発展とSDGs—」と題して、「スーパーグローバル大学創成支援事業」中間報告シンポジウム 岡山大学「PRIMEプログラム」を開催した。

第一部では、文部科学省からの来賓挨拶、楨野学長の事業報告、国連大学サステナビリティ高等研究所・竹本所長の基調講演を行い、第二部では、本学の理事、学生、教員に加えて、芸術界や経済界、海外協定校等からパネリストを招き、「これからの持続発展社会への道をグローバルに拓く高度実践人の育ち方、育て方」をテーマにパネルディスカッションを実施した。



〈基調講演を行う国連大学サステナビリティ高等研究所・竹本所長〉

○ 「スーパーグローバル大学創成支援事業」ウェブサイト(日・英)の開設

平成30年3月に、本事業を幅広く周知し、日本の大学の国際化の取組に資するよう本学の取組「PRIMEプログラム」を紹介する専用ウェブサイト日本語・英語版で同時開設した。

コンテンツ内容として、最新情報を日々更新する「NEWS&EVENTS」、本事業にて目指す「MISSION」、取組内容を具体的に紹介する「PROGRAM」、また成果指標の目標値と実績値を公表する「VISION」、本事業で活躍する「学生紹介」等を掲載している。

●「スーパーグローバル大学創成支援事業」ウェブサイトはこちら

<https://www.sgu.ccsv.okayama-u.ac.jp/>



〈「スーパーグローバル大学創成支援事業」ウェブサイトTopページ〉

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【岡山大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 「クリティカル・ランゲージ・スカラシップ(CLS)」に採択

本学は、米国国務省の教育文化局(ECA)が運営する「米国国務省クリティカル・ランゲージ・スカラシップ(CLS)日本プログラム」に採択された。本プログラムは、全米の大学から集う約500人の応募者の中から学業・人物ともに優秀な大学学部生や大学院生を26人選抜し、日本の大学で日本語と日本文化を学ぶことができる2カ月間の短期留学プログラムである。2019年6月から受け入れを開始し、本学では地域を活かした課外活動やホームステイ活動等を提供して、全学レベルで進めているSDGsやESD(持続可能な開発のための教育)を通じた人材育成拠点として、グローバル教育を一層推進していく。



〈米国国務省・教育文化局(ECA)訪問〉

○ 世界ユースサミット「One Young World 2018」に日本代表として参加

オランダ・ハーグ市で開催された「One Young World (OYW)2018」に本学の学生2人が日本代表団の一員として参加した。OYWは、世界190カ国以上から各国を代表する次世代の若いリーダーが会する世界最大級のサミットである。本学は、2015年から4大会連続で公式パートナーとして参加している。SDGsを枠組みとしながら、気候変動から戦争と平和、教育、人権、リーダーシップ、グローバルビジネス等、多岐に渡ってディスカッションを行った。



〈オランダ・ハーグでの開会式〉

○ 「ライデン大学日本語日本文化研修プログラム」を開始

平成30年度から新たに「ライデン大学日本語日本文化研修プログラム」を開始し、23人を受け入れた。本プログラムは、オランダ・ライデン大学人文学部との連携の下、日本語力の向上や日本文化の理解、学生交流を重視した3ヶ月の受入れプログラムである。受入留学生による「地域文化研究」発表会では、スライドを使用しながら、研修期間中に一番印象に残ったことについて発表した。本学での研修成果を母国に持ち帰り、次のステップに生かしてくれることを期待している。



〈「地域文化研究」発表会・プログラム閉講式〉

ガバナンス改革関連

○ 海外戦略担当副学長を新設・任命し、本学の成果を世界へ発信

平成30年9月11日付けで横井篤文海外戦略担当副学長を任命した。横井副学長は、パリで開催された「第1回ユネスコ・パートナーズ、フォーラム」に参加し、ユネスコとの更なる連携を強化した。

また、東京で開催された今上天皇・皇后両陛下御成婚記念事業である内閣府主催・宮内庁協力の「国際青年交流会議」において、平成30年度基調講演及び陛下行啓ディスカッションの統括ファシリテーターとして招待された。ディスカッションのテーマとして「水と災害」を企画し、SDGsを枠組みとしながら、両陛下御接見の下、世界から選抜された9名の外国青年とのディスカッションをファシリテートした。



〈横井副学長のファシリテーションによるディスカッションを視察される今上天皇・皇后両陛下〉
(写真は主催者から提供)

教育改革関連

○ 「SiEEDプログラム」～ 真のイントラ・アントレプレナーを岡山から～

岡山大学、株式会社ストライプインターナショナルは、岡山から未来創造に向けた新たな学びの場を通して、新たなビジネスが創出されることを目指し、岡山大学内に『SiEED(STRIPE intra & Entrepreneurship Empowerment and Development)プログラム』を開講した。SiEEDプログラムは、激しく変化する社会において、より良い世界の創造を目指し、未知の問題を発見し未知の解決法を自ら創造する力を涵養することを目的として、未来に挑戦する起業家精神(Entrepreneurship)と 組織内から改革する精神(Intrapreneurship)を学ぶ。



〈SiEED試行講義の様子〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 平成30年度第2回若手職員塾を開催—SDGs推進企画会議コラボ—

大学の発展を担う大学職員の役割を考え、実践する力の養成を目的とした、PBL型研修「岡山大学若手職員塾」を開講。同研修は平成24年度より実施しており、平成30年度は全5回構成で、10人の若手職員が受講。

第2回の講座は、国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)を題材に、岡山大学SDGs推進企画会議とコラボレーションして開催。本学の強みを知り、未来を探ることを目的に、SDGsの取り組みを事例として、同企画会議メンバーと共にグループワークを実施。本学のSDGs推進に向けた、具体的なテーマが与えられ、それぞれの課題と解決策の方向性を考えて発表した。



〈グループワークの様子〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

グローバル実践型科目であるカナダのブリティッシュコロンビア大学(UBC)と連携した「国際インターンシップ」科目について、平成30年度は5企業、2自治体、2研究室(学内)において「Co-op in Okayama」のUBC学生2人を受入れた。並行して、本学学生に向けて「国際インターンシップ」を開講、7人が履修し、UBC学生と共に県内の林業、林産業関連の企業及び自治体で就業体験を通じた学修を行った。

2. 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

平成31年3月現在で、86人(日本を含め21か国)の学生がグローバル・ディスカバリー・プログラムに在籍し、総勢14人(日本を含め6か国)の専任教員で構成する多様性に富んだ組織で運営している。

学生は、主に学内の10学部の授業を組み合わせる「学部・横断型マッチング・トラック」と、主にディスカバリー専任教員が英語で提供する科目を履修する「ディスカバリー専修トラック」が選択でき、トラックの境界を越えた履修も可能である。この仕組みにより、英語と日本語の二言語教育、既存の学問分野の枠にとらわれない課題解決型教育を実践している。

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

平成30年4月に本学8番目の研究科として、「大学院ヘルスシステム統合科学研究科」を設置した。戦略的広報活動として、本研究科に関する講演会や大学院説明会を計3回行った他、平成30年6月に開設記念行事、平成31年1月に国際シンポジウムを開催するなど、学内外に本研究科の目的やビジョンなどを強力にPRした。また、本研究科の教育・研究の質の向上を目的として平成31年3月にFD研修も開催した。



〈開設記念行事にて、文部科学省高等教育局長の祝辞を代読する瀧本審議官(当時)〉

■ 自由記述欄

○ 岡山大学スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会を開催

外部有識者5人、本学学長、理事2人、グローバル・パートナーズセンター長が出席し、通算4回目となる平成30年度岡山大学スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会を開催した。

外部評価委員から「事業における課題を精査し、7年目の中間評価も視野に入れた今後の事業の方向付けを行うことが必要。全学の取り組みから、各部署への内部化を行っていることは重要であり、そこで生まれたエッセンスをフィードバックして、全学の取組みに発展させてほしい」といった意見をいただき、学長のリーダーシップの下、大学全体でより一層の「大学改革」、「国際化」に取り組んでいくことができた。



〈質疑応答の様子〉

○ 「スーパーグローバル大学創成支援事業」パンフレット(日)を発行

本事業を幅広く周知し、日本の大学の国際化に資するため、平成31年1月に、本学の取組み「PRIMEプログラム」を紹介するパンフレットを日本語で発行した。

構想調書の見直しに記載した国連より提唱されたSDGs達成への貢献を本事業に取り入れ、「Move on Now」と題して次のステージへシフトする本プログラムの内容を幅広く共有することができた。



〈「スーパーグローバル大学創成支援事業」パンフレットより、「Move on Now」〉

● 岡山大学「スーパーグローバル大学創成支援事業」ウェブサイトから閲覧可

<https://www.sgu.ccsv.okayama-u.ac.jp/>



7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【岡山大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 全学でのSDGsの取組を国連本部で発表

国連本部内において開催された「Education for Sustainable Development for 2030」と題する国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF)(ユネスコ主催、日本政府・ドイツ政府・ケニア政府共催)でのサイドイベントにて、榎野博史学長が本学のSDGs大学経営を、全学でSDGsを推進する全学的取組(Whole institution's approach)として発表した。

本学は令和元年度から3年間でSDGs大学経営を具現化し、10年後に描くSustainabilityとWell-beingを追求する研究大学としての「長期ビジョン」へと繋げていくことを目指す。



〈発表する榎野学長〉

○ UNCTADとSTI for SDGsの人材育成と推進に向けた包括連携協定締結

本学と国連貿易開発会議(UNCTAD)は令和2年1月、SDGs達成のための科学技術イノベーション(STI for SDGs)の人材育成に向けて、MoU(包括連携協定)を締結した。UNCTADと大学によるMoUの署名は世界初である。

今後本学はMoUに基づき、UNCTADが推進するSTI for SDGsに資するため、短期プログラム(途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース)と長期プログラム(途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム)の2つの人材育成プログラムを提供していく。この締結を契機に、STI for SDGsを実施運営する国連の中枢機関のUNCTADと連携して、STI for SDGsの人材育成の取組を岡山から世界へ発信していく。



〈UNCTADとMoU締結〉

○世界ユースサミット「One Young World 2019」登壇者に初選出

イギリス・ロンドン市で開催された「One Young World 2019」に本学の学生2人が日本代表団の一員として参加した。うち1人が、全体セッションの一つ「One Young World 宗教間対話(One Young World Interfaith Dialogue)」において世界ユース代表の1人として選出され、現職のリーダーらと共に登壇した。日本人として史上3人目となるステージ選出であり、本学として初の快挙。



〈全体セッション登壇の様子〉

ガバナンス改革関連

○ 岡山大学初の統合報告書「Pay it Forward」の発行

本学初の「岡山大学統合報告書2019-Pay it Forward-」を日英でそれぞれ発行した。統合報告書とは、組織がどのように長期にわたり価値を創造するかを説明するもので、本学としては初の試み。学内外・国内外問わず様々なステークホルダーに対して、本学のこれまでの成果や実績を振り返り、未来に繋げるビジョンをわかりやすく説明し、「共有、共感、そして共働へ」の輪を広げた。

発行にあたり、「岡山大学統合報告フォーラム2019」を開催し、本学同窓生・学生、高校生、他大学及び企業関係者、地域の方々ら約200人が来場した。



〈岡山大学統合報告書2019-Pay it Forward-(英語版)〉

教育改革関連

○ 岡山大学を地域に根ざしたSDGs学習の世界拠点に

本学が推進するSDGs教育として、令和元年度から全新生を対象にガイダンス科目「岡山大学×SDGs入門」を開講した。「SDGsとは何か」、「岡山大学のこれまでの取組」について語りかけながら、新入生がそれぞれの学びを実践する「自分ごとのSDGs」への手がかりを得て欲しいと期待している。

また、SDGsの普及・推進活動に賛同する個人または団体を「岡山大学SDGsアンバサダー」として任命する制度を新たに設け、133人を任命した。こうしたSDGsアンバサダーの取組が活性化することで、本学のSDGsの普及・推進が加速することが期待される。



〈キックオフミーティングの開催〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ SDGsをメインテーマに令和元年度「岡山大学未来懇談会」の開催

本学では、次世代を担う若手教職員が自由な発想で持続可能な岡山大学を考える新たな大学ガバナンスプラットフォームとして「岡山大学未来懇談会（未来懇）」を平成29年度より開催している。令和元年度は「岡山大学×国連SDGsのさらなる深化に向けて」をテーマに、現役の若手教職員に加え岡山大学SDGsアンバサダーの本学学生も参加した。その成果として、キャンパス環境・教育・研究の目に見える改善を実行するための計画案を提案し、岡山大学が「学びたい大学」、「働きたい職場」となる「もっと選びたくなる岡山大学へ進化」のための道筋を示した。これらの提案を、今後のSDGs大学経営に反映していく。



〈関連な議論が行われたグループ討議〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

1. グローバル実践型教育の全学展開

グローバル実践型科目であるカナダのブリティッシュコロンビア大学(UBC)と連携した「国際インターンシップ」において、令和元年度は6企業、2自治体、2研究室(学内)において「Co-op in Okayama」のUBC学生2人を受入れ、本学学生5人が履修し、UBC学生と共に県内の林産業関連の企業及び自治体で就業体験を通じた学修を行った。

2. 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

令和2年3月現在で、142人(日本を含め25カ国)の学生がグローバル・ディスカバリー・プログラムに在籍し、総勢14人(日本を含め5カ国)の専任教員で構成する多様性に富んだ組織で運営している。授業の一環として地域社会のSDGsを考える「津山アイディアソン」に海外生を含む学生27人が参加した。津山市役所、観光協会、商工会議所関係者、NPO、地域の方々、高校生や教員等と一緒に報告会にも参加し、津山の歴史や文化を活かした体験型博物館やカフェ、環境保護活動、地域の起業家支援等について報告した。



〈津山アイディアソンの報告会〉

3. 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

ヘルスシステム統合科学研究科でHPの拡充や新聞広告、公開講座の実施、北京での留学生説明会への教員派遣、O-NECUS協定附属文書の締結に基づいた新たな「短期留学プログラム」を開設、海外の大学への個別訪問等戦略的な広報活動を行った。これらの戦略的広報活動を含め、研究科として努力を重ねることにより、入学定員の充足(博士後期課程において、平成30年度7人入学:充足率約44%→令和元年度19人入学:充足率約119%)を図ることができた。

■ 自由記述欄

○ 岡山大学創立70周年記念国際シンポジウムの開催

本学創立70周年記念行事の一環として、「SDGsのための日米若手人材育成交流に向けて」と題した国際シンポジウムを開催した。CLS (Critical Language Scholarship)プログラムを運営する米国アメリカン・カウンシルズのデビッド・パットン理事長と米国ミシガン大学日本研究センターの筒井清輝所長が基調講演を行った。パネルディスカッションでは、グローバル・ディスカバリー・プログラムの学生もパネリストとして参加し、「日米交流における人材育成について」と題して、SDGsを推進する人材育成と交流の在り方について意見を交わしたほか、「地域に学ぶ人材育成について」をテーマに、地域に焦点を当てた活発な議論を行った。



〈パネルディスカッションの様子〉

○ 「スーパーグローバル大学創成支援事業」パンフレット(英語版)の発行

本事業を国内外に幅広く周知するため、令和元年8月に、本学の取組「PRIMEプログラム」を紹介するパンフレットの英語版を発行した。

- 岡山大学「スーパーグローバル大学創成支援事業」ウェブサイト(英)から閲覧可

<https://www.sgu.ccsv.okayama-u.ac.jp/en/>



〈スーパーグローバル大学創成支援事業パンフレット(英語版)〉

8. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【岡山大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 地球憲章国際本部と包括連携協定の締結

令和2年6月、本学は地球憲章国際本部(Earth Charter International: ECI)と包括連携協定を締結した。令和元年12月にECIを訪問した際に、ESDと地球憲章を統合的に取り組み、ESD for 2030を推進することでECIと基本合意し、今回の協定締結に至った。

また、同じく令和2年6月に、本学の横井篤文副学長(特命(海外戦略)担当)・ユネスコチェアホルダーが地球憲章国際審議会委員に選出され、「地球憲章20周年オンラインフォーラム」にてスピーチを行った。



〈包括連携協定締結の様子〉

○ ポストコロナとSDGsを見据えた大学の国際戦略にかかるオンライン国際会議を共催

令和3年1月に、包括連携協定を締結しているカナダ・ヨーク大学、カナダ政府ユネスコ国内委員会、および国際大学協会との共催で、ポストコロナとSDGsを見据えた持続可能かつ包摂的な社会のための大学の国際戦略に係るオンライン国際会議を開催した。同会議では、高等教育に係る関係者が一堂に会し、不確実で将来の予測が困難な世界の下での大学における国際化の課題と展望を議論した。

本学からは、榎野博史学長があいさつを述べ、本学の学生が、世界ユースサミット(One Young World)や本学のグローバル・ディスカバリー・プログラムなどを通じたグローバルな経験や活動を世界に発信した。

本学が主催したセッションでは、人類と地球の健康を統合的に推進するための大学の果たす役割の重要性や、本学のSDGsを柱組みとする地域から世界へのグローバル・エンゲージメント戦略と取組みについて共有と意見交換を行った。



〈本学学生によるビデオメッセージ〉

○ 米務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」をオンラインで開講

本学は、令和元年度から「重要言語奨学金(CLS)プログラム」の派遣先に採択され、米務省により選抜された全米トップクラスの大学生・大学院生に対し、日本語と日本文化を集中的に学ぶプログラムを提供している。

令和2年度は、10月から7週間、オンラインで開講し、全米から選抜された13人の留学生が受講した。日本語のオンライン授業のほか、学内環境理工学部ビオトープのバーチャル体験や、矢掛町の街並み紹介と矢掛高校との学生交流、茶道師範による茶道体験などの学外文化活動をライブセッションで行うなど、「リモート×地域との協働」による効果的なプログラムを提供した。その結果、CLSプログラムを運営するアメリカン・カウンスルから、5段階で「4.15」と、全CLSプログラムの中で「Acing(最優秀)」の評価を得た。



〈オンライン開催の様子〉

ガバナンス改革関連

○ 「岡山大学統合報告書2020 -Pay it Forward-」を発行

SDGs大学経営とエンゲージメントをテーマにして、「岡山大学統合報告書2020 -Pay it Forward-」を日本語版、英語版それぞれ発行した。

発行にあたり、「SDGs大学経営を育むエンゲージメントとは」と題した統合報告フォーラムを対面とオンラインのハイブリット型で開催した。本学の学生や同窓生、高校生、他大学関係者、企業関係者、地域の方々らが、会場とオンラインを合わせて約200人参加した。企業や行政のリーダーとして活躍されている方々をパネリストに招き、教員・職員・学生とともに、「SDGs大学経営で育むエンゲージメントとは」をテーマにパネルディスカッションを実施した。



〈事業報告を行う榎野学長〉

教育改革関連

○ 学修者主体の教育と指導のためのFD研修を開催

令和元年度に、「学修者主体の学び」と「教育の内部質保証」の実現に向けて設置されたCTEでは、学生の自主的学習の充実を目指し、『学修者主体の教育と指導』の年間FD研修カリキュラムを作成してオンラインで実施した。FD研修では、課題探究型教育プログラム等で活用できるグループディスカッションやグッドプラクティスの共有を図った。また、Microsoft Streamを活用した「CTEアーカイブ」を開発して、動画教材の配信を行った。



〈CTEメンバー〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ D&Iをメインテーマとした令和2年度「岡山大学未来懇談会」の開催

本学では、平成29年より次世代を担う若手教職員が自由な発想で持続可能な岡山大学を考える新たな大学ガバナンスプラットフォームとして「岡山大学未来懇談会（未来懇）」を開催している。令和2年度は、「岡山大学ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）のさらなる深化に向けて」をテーマに、オンラインで開催した。「ジェンダー」「障がい者」「外国人研究者・留学生」をテーマに、3つのグループでそれぞれ活発なグループ討議を行った。

教員や職員それぞれの現場経験に基づいた視点を活かし、現状と課題を共有し、解決するための具体的な施策についての提言を、大学執行部や部局長に対して行った。



〈グループ討議〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ グローバル実践型教育の全学展開

新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、感染症リスクの比較的低い屋外で活動する科目（「桃太郎・桃子チャレンジ」、「倉敷市水島から学ぶ地域社会と環境」、「岡山まちづくり論」等）は実施した。現地活動ができない科目はWeb会議システムを活用して、リモートでヒアリングをしたり専門家からレクチャーを受けるなど、オンラインによる活動を実施した。

○ 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

令和3年3月現在で、198名（日本を含め28カ国）の学生がグローバル・ディスカバリー・プログラムに在籍し、総勢14名（日本を含め5カ国）の専任教員で構成する多様性に富んだ組織で運営している。新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業を基本としつつ、渡航制限等の事情により入国や登校ができない学生に配慮しながら一部の科目について対面とオンラインを混ぜたハイブリット形式での授業を実施した。実践的な学びについては、新規の海外留学や研修などに学生派遣できなかったが、従来通り実験・実習科目やフィールドワーク、課題実践を開講したほか、新たに動画制作等を学ぶための特別科目を開講した。



〈グループディスカッションの様子〉

○ 強みを伸長する医療工学分野の学部・大学院

ヘルスシステム統合科学研究科では、革新的なサービス・商品の創出支援を通じて、地域住民や企業従業員の方々の健康や生活全般に関わる課題を解決することを目的とし、令和元年度から「岡山リビングラボ」を開催している。令和2年度は、外部の有識者と連系してアントレプレナー教育プログラムを7回、大手企業を招聘してヘルスケア事業化セミナーを6回実施した。また、地域社会、医療現場、患者等の課題解決をテーマとした「リビングニーズマッチング（地域課題等解決型ワークショップ）」も実施しており、事業化に向けた相談案件も複数受けている。

■ 自由記述欄

○ 中間報告シンポジウム「SGU × SDGs Beyond2030」の開催

令和3年3月に『第2回岡山大学「スーパーグローバル大学創成支援事業」中間報告シンポジウム SGU × SDGs Beyond2030』をオンライン開催した。他大学関係者、企業関係者、学内教職員、本学学生、高校生の方々から約300人が参加した。第一部では、文部科学省からの来賓挨拶、榎野学長の事業報告、星野教授と大原名誉館長の基調講演を行った。第二部では、SGU採択校からパネリストを招き「大学の新たな価値～エンゲージメント型大学経営に向けて～」をテーマにパネルディスカッションを実施した。第三部では、One Young Worldセッションを設け、歌手のAIさんともコラボレーションしたことにより、若い世代の参加者を多く得ることができた。

本事業がスタートして7年が経過し、PRIMEプログラムで育成している高度実践人と行ったような学生達の成長やその活躍を伝えられるシンポジウムとなった。



〈One Young Worldセッションの様子〉

○ 「スーパーグローバル大学創成支援事業」ウェブサイト(日英)をリニューアル

コロナ禍でオンラインでの情報発信がより重要となり、本事業を国内外に幅広く周知するため、本学スーパーグローバル大学創成支援事業ウェブサイト(日本語版・英語版)をリニューアルした。主なりニューアル箇所は、①PRIMEプログラムの取組や成果等をわかりやすく解説した「アニメーション動画」の制作、②学生の成長・活躍を生々の声でお伝えする「在学生及び卒業生メッセージ」の追加、③「SGU × SDGsコンテンツ」の充実等である。

世界のトップステージで活躍できる人材を育成



〈SGUアニメーション動画〉

◆岡山大学「スーパーグローバル大学創成支援事業」ウェブサイトはこちら

<https://www.sgu.ccsv.okayama-u.ac.jp/>

◆SGUアニメーション動画はこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=RfIo2QOz78I>



SGUアニメーション動画

9. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【岡山大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ ESDに関するユネスコ世界会議で取組を発表

令和3年5月、ユネスコ主催の持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議がオンラインで開催され、本学ユネスコチェア チェアホルダーの横井上席副学長が本学におけるESDの取組を発表した。本会議は、SDGs達成に向けて日本が主導してきたESDの新たな枠組みであり、ユネスコの新しいロードマップである「ESD for 2030」の開始にあたり開催され、世界70か国の教育大臣や副大臣、2,800のステークホルダーが参加した。

今後、本学は岡山から国内外の様々なステークホルダーとの連携を深め、SDGs達成に向けて、ESDを一層推進していく。



〈ユネスコ世界会議における岡山大学ユネスコチェアの紹介〉

○ 国連平和大学と包括連携協定の締結

令和3年7月、本学は生態系と地球の健康(Planetary Health)に資するSDGsの達成に貢献するため、コスタリカの首都・サンホセ市にある国連平和大学と包括連携協定を締結した。

今回の協定締結をきっかけに、SDGs達成に向けて、持続可能な開発のための教育(ESD)、地球市民教育(GCED)ならびに地球憲章(Earth Charter)の3つを統合した取組を行うとともに、国際友好交流都市である岡山市とサンホセ市を交えた包括的な人材育成および社会貢献事業等を推進していく。



〈包括連携協定締結の様子〉

○ 「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」のオンライン研究成果発表会を開催

令和3年8月、本学と国連貿易開発会議(UNCTAD)による「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」の研究成果発表会をオンラインで開催した。本発表会では、UNCTADとの包括連携協定に基づき当該コースに参加したASEAN諸国及びアフリカの若手女性研究者が本学指導教員と進めてきた研究の成果等についてプレゼンテーションを行った。

本学はこの事業を契機に、SDGs達成のための科学技術イノベーション(STI for SDGs)を実施運営する国連の中核機関であるUNCTADと連携を強化し、STI for SDGsの人材育成の取組を岡山から世界へ推進し、国内外に発信していく。



〈若手女性研究者による研究発表の様子〉

ガバナンス改革関連

○ 「岡山大学統合報告書2021 - Pay it Forward - 」を発行

「ありがたい未来を共に育み、共に創る研究大学」をテーマにして、「岡山大学統合報告書2021 - Pay it Forward - 」を日本語版、英語版それぞれ発行した。発行にあたり、「HAVE A DREAM - ありがたい未来の共育共創 - 」と題した統合報告フォーラムを対面とオンラインのハイブリッド型で開催した。当日は、本学教職員・学生、同窓生、高校生、他大学関係者、企業・地域の方々が、会場とオンラインを合わせて約180人参加した。本学のステークホルダーでもあり、今後の将来を担う若者をパネリストに招き、「HAVE A DREAM - ありがたい未来の共育共創 - 」をテーマにパネルディスカッションを実施した。



〈パネルディスカッションの様子〉

○ ダイバーシティ&インクルージョンポリシー(D&I)の制定

本学では、D&Iに関わる学内の様々な専門家がジェンダー、障がい者、外国人研究者、留学生及び高齢者を主な視点として、これまでの取組の検証とD&Iの推進に向けた将来像の検討を行い、令和3年5月に「岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンポリシー」を制定した。本ポリシーでは、本学の多様な属性・個性を持つ一人一人の構成員が互いの価値を理解し合い尊重し、それぞれの特性を活かして共に成長できる大学となることを宣言している。

令和3年6月には、キックオフとして「ダイバーシティ・インクルージョンデー」を開催し、様々な属性や個性を持った教職員及び学生が、D&I 推進への思いや期待についてパネルディスカッションを行った。



〈ダイバーシティ・インクルージョンデーの開催〉

教育改革関連

○ 50分授業・4学期制の導入

本学は、「学修者主体の学び」に向けて教育改革を進めており、平成28年度に、90分授業、前期・後期制を改め、60分授業・4学期制を導入した。これにより、80%以上の教員が授業の見直しを行い、半数に近い授業でアクティブ・ラーニングを導入するなど、授業の改革・改善が進んだ。一方で、60分授業導入に伴い、学生の自主学習時間等の確保やカリキュラムデザインの自由度という点で課題が明らかとなった。教育改革を更に進めるため、令和3年度から60分授業を50分授業に見直すとともに、EdTechをはじめとする学修の支援環境の整備を進めることで自律的学修を保証し、学びの質の確保を図った。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ DXをメインテーマとした令和3年度「岡山大学未来懇談会」の開催

本学では、平成29年度より次世代を担う若手教職員が自由な発想で持続可能な岡山大学を考える新たな大学ガバナンスプラットフォームとして「岡山大学未来懇談会」を開催している。

令和3年度は、「『攻めのDX』- 教育・研究×DXで拓く新たな地平 -」をメインテーマとし、「入試・入学前教育×DX」、「在学中×DX」、「研究×DX」について、教員・職員・学生のそれぞれの立場に基づいた視点で活発な議論が行われ、独創的で自由な発想による様々な提案がなされた。これらの提案を大学執行部や部局長に対して行うとともに、今後のDX推進にも活かしていく予定としている。

【岡山大学】



〈グループディスカッションの様子〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 実践型教育の全学展開

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインを中心とした授業が基本となったが、学生同士の相互触発を意識的に取り込んだ授業を多く実施した。例えば、実践型社会連携教育科目の「地域の未来デザイン」においては、地域を題材として学生自らが課題を見つけ、ビッグデータの活用・分析、市民へのオンラインインタビュー、グループディスカッションを通して、地域課題解決のためのアプローチを考えることを目的としており、グループワークと個人ワークを適切に組み合わせることで、オンラインであっても主体的に学びに向かう姿勢を育むことのできる授業を展開した。

○ 特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

令和4年3月現在、235名（日本を含め29カ国）の学生がグローバルグローバル・ディスカバリー・プログラムに在籍し、総勢14名（日本を含め5カ国）の専任教員で構成する多様性に富んだ組織で運営している。

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン授業を基本としつつ、渡航制限等の事情により入国や登校ができない学生に配慮しながら、一部の科目について対面とオンラインを混ぜたハイブリッド形式での授業を実施した。令和3年9月及び令和4年3月には、計44名の本プログラム第1期卒業生を輩出した。

引き続き、学部や学科の枠にとらわれない履修プログラムにより、グローバルに活躍できる人材育成を推進していく。



〈学位授与式の様子〉

■ 自由記述欄

○ 次世代リーダー・グローバルサミット「One Young World」に関する取組

ドイツでハイブリッド開催されたOne Young World (OYW) 2021に本学の学生2名が日本代表団の一員として参加した。OYWは世界190カ国以上から各国を代表する次世代リーダーが会する世界最大級のサミットであり、ニューノーマル時代のSDGsの在り方、SDGsの達成や世界が抱える課題解決などについて活発な議論を行った。

また、岡山県の大型ショッピングセンターにて、「WE HAVE A DREAM × 岡山大学」と題した企画展示を実施した。本企画は持続可能な開発や問題に取り組む各国の若者たちの行動と描く夢をまとめた書籍「WE HAVE A DREAM」(OYWアンバサダー企画)の世界同時出版記念に際して開催し、OYWに過去参加した本学学生4名が、それぞれの夢や望む未来社会像などをパネルで紹介した。

更に、読売新聞全国版にて本学がOYWの取組みを応援するとともに、学生に活躍の場を提供し、次世代リーダーの育成を推進している内容の全面広告を掲載した。本広告は本学、OYWジャパンの公式アーティストである歌手のAIさん、OYW等との共同で制作した。

本学は、今後もOYWなどの世界的次世代ネットワーク活動への参画を推進していく。



〈読売新聞に掲載した広告〉

○ THEインパクトランキング2021で世界200位以内、国内同列1位に

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」による「THEインパクトランキング2021」において、本学はエントリーした5つのゴール(SDG3:すべての人に健康と福祉を、SDG9:産業と技術革新の基盤をつくろう、SDG11:住み続けられるまちづくりを、SDG16:平和と公正をすべての人に、SDG17:パートナーシップで目標を達成しよう)の全てでランクインした。総合ランキングでは国内6大学と並んで、世界トップ200位以内(101-200位)、国内同列1位にランクされた。本学のSDGs大学経営の成果が評価されたものと考えており、今後もSDGs推進研究大学として、「共育・共創」でSDGsの取組みを推進していく。



〈THE Impact Rankings 2021 logo(岡山大学)〉
https://www.timeshighereducation.com/impactrankings#/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/undefined

10. 取組内容の進捗状況(令和4年度)

【岡山大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 国連貿易開発会議(UNCTAD)テクノロジー・ロジスティクス局長 シャミカ・シリマン氏の来学が実現

本学とUNCTADは令和元年度にSDGs達成のための科学技術イノベーション(STI for SDGs)の人材育成に向けて大学としては世界初となる包括連携協定を締結しており、本協定に基づき、長期と短期二つの人材育成プログラムを実施している。令和4年度には、UNCTADテクノロジー・ロジスティクス局長であるシャミカ・シリマン氏を招聘し、「技術革新の波を捉える-公平性のあるイノベーション-」と題して本学学生・教職員、地域の方や高校生らの参加者に対して、特別講演を行っていただくとともに、途上国からの若手女性研究者を対象とした短期プログラムの研究成果発表会、研究者・学生らとの交流セッション等が行われた。シリマン局長の来学を契機に、本学はUNCTADの主要加盟国43カ国で構成される「開発のための科学技術委員会(CSTD)」年次会合で他の3カ国とともに日本の代表として本共同プログラムについて説明、なかでも学長のビデオメッセージでは、本学とUNCTADとの継続的な協力・共同を加盟国メンバーに向けて発信した。



〈UNCTADテクノロジー・ロジスティクス局長による講演会の様子〉

○ SDGsに取り組む若手人材育成の還流

本学は、令和元年度から米国国務省が実施するクリティカル・ランゲージ・スカラシップ(CLS)プログラムのパートナー校に採択されており、令和4年度は、日本語のオンライン授業のほか、本学環境理工学部ビオトープのバーチャル体験、岡山県矢掛町の街並み紹介、矢掛高校との学生交流、茶道師範による茶道体験などの学外文化活動をライブセッションで行う等、「リモート×地域との協同」により効果的な教育プログラムを提供した。また、本学のCLSプログラム受講生がフルブライト奨学生として本学に再留学し、岡山のまちづくりについて学ぶなどの事例が続いており、SDGs教育を通じた若手人材育成の好循環が生まれている。



〈フルブライト奨学生として本学に再留学したナタリー・モンテシノさん(右)〉

○ 地球憲章国際会議2022等で本学の取組を発信

令和4年度、中米コスタリカにおいて開催された「地球憲章国際審議会」「地球憲章国際会議2022」に榎野学長が招待参加した。審議会では、地球憲章と連携した本学の取組に関して積極的な意見交換がなされ、国際会議では、地球憲章国際審議会委員として、本学横井上席副学長が登壇するとともに、これまでの貢献に対するトロフィーが榎野学長に贈呈された。

また、スイスに本部を置く世界的なシンクタンクのローマクラブの年次総会が開催され、各界の世界的リーダーに対して本学の活動を発信し、本学の国際的なプレゼンスの向上に繋がった。

本学は、UNESCOが推奨する地球憲章及びSDGs達成に向けたイニシアチブ「ESD for 2030」の統合的な取組みを発信している。



〈本学の取組を発表する榎野学長〉

ガバナンス改革関連

○ 「岡山大学統合報告書2022 - Pay it Forward - 」を発行

「次世代と共に拓くありたい未来」をテーマにして、「岡山大学統合報告書2022 - Pay it Forward - 」及びダイジェスト版を発行した。

発行にあたり、「トランスフォームの第4期へ」と題した統合報告フォーラムを対面とオンラインのハイブリッド型で開催した。当日は、本学教職員・学生、一般の方を含めて約130人が参加した。パネリストには本学のステークホルダーでもあり、今後の将来を担う若手外国人教員、学生、留学生等を、ゲストコメンテーターには本学経営協議会委員であり、名古屋外国語大学学長の亀山郁夫先生をそれぞれ招き、「次世代と共に拓くありたい未来」をテーマに活発なディスカッションを実施した。



〈パネルディスカッションの様子〉

○ **ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)デイズの開催**

本学では、様々な属性・個性を持つ構成員がそれぞれの力を発揮できる大学となることを目指し、令和3年5月に「岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンポリシー」を制定した。本ポリシーに基づき、構成員全員と一緒にD&Iについて考え、D&Iをより身近に感じられる機会となるよう、令和4年11月の1ヶ月間を「岡山大学D&Iデイズ」として、セクシャルマイノリティ講演会やパラスポーツ「ポッチャ大会」など様々な取組を実施した。



〈ダイバーシティ・インクルージョンデイズの開催〉

教育改革関連

○ **総合的英語力の経時的評価**

本学の教育のミッションである「主体的に変容し続ける先駆者」の育成に向けて、学生の英語力(聞く, 読む, 話す, 書く, を統合した英語の総合力)について、外部試験(Linguaskill)を活用し、学士課程・大学院修士課程(博士前期課程)を通じた伸長と経時的評価を確認するため、令和4年度の試行実施を経て、令和5年度から学士課程1年次、3年次、大学院修士課程(博士前期課程)1年次に実施することとした。今後、学生の更なる学習の動機付けや留学・正課外も含め、英語教育の改善を図っていく。

■ **大学独自の成果指標と達成目標**

○ **令和4年度若手職員塾の開催**

大学の発展を担う大学職員の役割を考え、実践する力の養成を目的とした、PBL型研修「岡山大学若手職員塾」を開講した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年度以降、開講を見送っていたが、3年ぶりに活動を再開した。令和4年度は採用2~7年目の若手職員9名が受講。

岡山大学ブランド力向上をテーマに、関係部署から講師を招いて意見交換を行うなど、全5回の研修を実施した。研修成果として、令和5年2月の事務連絡協議会において、インナーブランディングに係る企画提案を行い、令和5年度の企画実施を予定している。



〈若手職員塾の様子〉

■ **大学の特性を踏まえた特徴ある取組**

○ **特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム**

令和5年3月現在、237名(日本を含め31カ国)の学生がグローバル・ディスカバリー・プログラムに在籍し、総勢14名(日本を含め5カ国)の専任教員で構成する多様性に富んだ組織で運営している。令和4年度には43名の卒業生を輩出した。

また、卒業生の内定先の地元企業による特別講演会やホームカミングイベントを初めて開催するなど、在学生と卒業生との交流の場を創出した。

更に、プログラム将来構想検討委員会を設置し、現状と課題の検証を行い、プログラムの充実と改善を基本構想とした「プログラム将来構想案」を作成した。



〈地元企業による特別講演会の様子〉

■ **自由記述欄**

○ **次世代リーダー・グローバルサミット「One Young World」に関する取組**

英国・マンチェスターでハイブリッド開催された「One Young World (OYW) 2022」に本学の学生2人が日本代表団の一員として参加し、全体セッションやワークショップ、ネットワーキング(交流会)などに参加。国連のSDGsを枠組みとしながら、気候変動から戦争と平和、教育、人権、ジェンダー、リーダーシップ、グローバルビジネスなど、多岐にわたるディスカッションを行った。

また、本学はOYWサミットの会場と地域拠点をライブ中継する地域集会(Hive)を岡山で開催した。令和4年度のHiveは北米はニューヨーク、南米はサンパウロ、アフリカはヨハネスブルク、アジアは岡山で開催された。「OYW 2022 Hive in Okayama, Japan」と題して本学が主催し、学生がリーダーになって企画・運営した。講演会やワークショップを実施し、県内外の高校生や大学生を中心とする約100人が参加した。イベントのハイライトでは、マンチェスターサミットの会場とライブ中継で繋ぎ、学生達が自身の夢を世界に発信した。さらに、英国・バース大学(University of Bath)で開催されたミニサミット「OYW Bath Caucus」では本学の学生2人が参加し、海外の地域学生との交流促進に寄与した。



〈マンチェスター会場とのライブ中継の様子〉

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 途上国における科学技術イノベーション分野での女性進出に資する人材育成モデルを世界発信

国連貿易開発会議(UNCTAD)との包括連携協定に基づいて実施している「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース(短期プログラム)」が、国連の『第8回SDGsのためのSTIIに関するマルチステークホルダーフォーラム』でSTI分野におけるジェンダーギャップに関する世界的なイニシアチブ「SHE in STI」の代表的な事例の1つとして選出された。

本事例を含む選ばれたイニシアチブは国連の報告書に掲載され、本フォーラムの会期に合わせ、ニューヨークの国連本部ビルにて展示された。今後もUNCTADとの連携を強化し、途上国におけるジェンダーギャップの改善を踏まえたSTI for SDGsの人材育成の取り組みを岡山から世界へ先導し、国内外に発信していく。



〈 本学プログラムが掲載された報告書 〉

○ 横井篤文副学長・ユネスコチェアホルダーが仏勲章を受章

フランス・パリにてフランス政府公認の「フランス社会功労奨励章」の叙勲式が開催され、本学でグローバル・エンゲージメント戦略を担当する横井篤文副学長兼ユネスコチェアホルダーが「月桂樹金製銀章(旧四等オフィシエ)勲章」を受章した。

横井副学長はこれまでユネスコを通じて、本学ユネスコチェアホルダーとして国連及び国際機関等と直接連携しながら、地域から地球全体のウェルビーイングに貢献する協働プロジェクトを多国間で共創、及び国際社会への発信、共有をしており、本勲章の授与に至った。



〈 右から横井副学長、フランス社会功労奨励章総本部事務局長ニコラ・ブデル氏、同日本・仏国代表・立松弘臣氏 〉

○ 次世代リーダー・グローバルサミット「One Young World」への参画

北アイルランド・ベルファストで開催されたOne Young World (OYW) 2023に、本学の学生2名が日本代表団の一員として参加した。OYWは世界190カ国以上から各国を代表する次世代リーダーが会する世界最大級のサミットであり、SDGsを枠組みとしながら、気候変動から戦争と平和、教育、人権など、多岐にわたる活発な議論を行った。また、岡山県教育委員会と本学との協働による「おかやま夢育イニシアチブ」の一環として、岡山県の高校生も初めてサミットへ派遣した。

本学は、OYWなどの世界的次世代ネットワーク活動への参画を通じて、次世代リーダーとなる優れた学生を育成している。



〈 OYW2023に参加した本学学生と岡山県高校生 〉

ガバナンス改革関連

○ 「岡山大学統合報告書2023 - Pay it Forward - 」を発行

本学は令和5年11月に「誇りと希望の学都・岡山大学～不易流行の大学経営～」をテーマとして、「岡山大学統合報告書2023 - Pay it Forward - 」を発行した。また、本学の考えをステークホルダーに発信するため、「岡山大学からステークホルダーの皆様へ - 岡山大学長期ビジョン2050の達成に向けたメッセージ」と題して、那須学長および理事からのメッセージ動画を配信し、様々なステークホルダーに、本学の掲げるビジョンからそこに向けた戦略と、これまでの実績をわかりやすく説明した。



〈 岡山大学統合報告書2023 〉

○ 部署横断型のIR機能「IRユニット」を設置

本学におけるIRとIEのあり方に関する検討を行い、纏められた提言を踏まえた施策として部署横断型のIR機能「IRユニット」を設置した。ユニットでは、大学に関する様々なデータを活用し、大学・部局の執行部による計画の策定や政策決定に必要なデータを提供するとともに、活動を通してユニットメンバー間で得られたデータ、ノウハウの蓄積・共有を行う体制となっている。

大学基本情報等の公開情報をベースにした他大学との比較や、研究力等に関する本学のデータの可視化により、EBPMの実施に向けた環境整備が着実に進んでいる。

教育改革関連

○高度実践人と一般学生の差異を検証

高度実践人と一般学生の違いを多角的に検証するため、学部4年生（高度実践人260名、一般学生353名、計613名）を対象に（株）ベネッセ-キャリアが提供するアセスメント・プログラム「GPS-Academic」を用いて客観的評価による検証を行った。GPS-Academicでは、「問題を解決するために必要な力」を多面的に測定し、思考力（批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力）、姿勢・態度（レジリエンス、リーダーシップ、コラボレーション）、経験（自己管理、対人関係、計画・実行）の観点から高度実践人と一般学生を比較し、多くの項目で、高度実践人が一般学生のスコアを大きく上回る結果となった。

| | 高度実践人 | 一般学生 |
|----------|-------|------|
| 思考力総合スコア | 55.0 | 52.6 |
| 批判的思考力 | 55.0 | 53.1 |
| 協働的思考力 | 56.3 | 53.1 |
| 創造的思考力 | 54.5 | 51.6 |

〈高度実践人と一般学生の差異検証結果（一部抜粋）〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ユネスコが岡山大学ユネスコチェア「持続可能な開発のための研究と教育」の設置認可を更新

令和5年5月にフランス・パリのユネスコ本部から「岡山大学ユネスコチェア：持続可能な開発のための研究と教育」の設置認可の更新を受けた。

本学はこれまで、大学院環境生命自然科学研究科と大学院教育学研究科を中心として、ESDを基盤とした高度専門人材の育成や、教育・実践活動支援を行うとともに、国内外の高等教育機関との連携を推進してきた。特に、アジア太平洋地域におけるESDのための教師教育のフレームワークを開発し、他のユネスコチェアやユネスコ・アジア太平洋国際理解教育センター（APCEIU）との協業、欧州、北米の大学との連携構築を行い、なかでもユネスコの出版物「持続可能な開発目標のための教育－学習目標－」を本学が共同で翻訳するなど、効果的な普及活動を行ったことで、ユネスコのロードマップである「ESD for 2030」に大きく貢献してきたとして評価を受け、更新に繋がった。

今後も、地域から地球規模に至る様々な課題解決に取り組み、高等教育機関としてESDに関連する幅広い活動を実施していく。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○特色を進化させるグローバル・ディスカバリー・プログラム

海外生と国内生が、英語を共通言語して学ぶ、学部・学科の境界を越えた文理融合という特色をもつグローバル・ディスカバリー・プログラムには、令和6年3月現在、239名（日本を含め24カ国）の学生が在籍し、総勢14名（日本を含め5カ国）の専任教員で構成する多様性に富んだ組織で運営している。

本プログラム生は、日米の学生が共同生活を送りながら様々な議論や活動を行う日米学生会議に選抜された他、韓国やドイツで開催された模擬国連に参加した。ドイツのエアフルト大学で開催された模擬国連NMUN-Germany Erfurt 2023では、7名（日本人4名、外国人留学生3名）の学生が参加し、自国とは異なる国の代表として大使の役割を担い、実際の国連の会議を模して国際政策に関する討論およびスピーチを行った。アルゼンチンとイタリアの代表として決議案を作成した本学チームは、Honorable Mention Awardを受賞した。



〈模擬国連に参加した本学チームメンバー〉

■ 自由記述欄（取組について自由にアピールしてください）

○岡山大学スーパーグローバル大学創成支援事業事業総括シンポジウムの開催

令和6年3月に岡山大学スーパーグローバル大学創成支援事業事業総括シンポジウム「地域と地球のありたい未来の共創 -ユースと共にウェルビーイングな地球社会を拓く-」を開催し、他大学関係者、企業関係者、学内教職員、本学学生、高校生ら約170名が参加した。

第一部では、文部科学省高等教育局の小林参事官（国際担当）からの来賓あいさつ、那須学長の事業報告、筑波大学BENTON教授の基調講演を、第二部では、「地域と地球のありたい未来の共創 -ユースと共にウェルビーイングな地球社会を拓く-」をテーマに、横井副学長がファシリテーターを務め、本学学生2名、（株）World Roadの市川代表取締役CEO、BENTON教授がパネリストとして登壇し、パネルディスカッションを実施した。



〈事業報告を行う那須学長〉

那須学長は、「10年間のSGUの成果をしっかりと取り込み、岡山大学長期ビジョン2050『地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学』の達成と、日本人学生と外国人留学生との共修環境の創出および外国人留学生の地域への定着を目指していく」と発信した。

SGU事業は令和5年度で終了したが、この10年間で培ったさまざまな成果を本当の意味での岡山大学の特徴にしていくために、学生とともに教職員一丸となって、今後も国際化と大学改革に取り組んでいく。